

平成 2 5 年 度
事 業 報 告 書

事業年度 自 平成 2 5 年 4 月 1 日
(第 4 期) 至 平成 2 6 年 3 月 3 1 日

公益社団法人日本パブリックゴルフ協会
東京都中央区銀座一丁目 1 9 番 1 6 号

(A 0 0 1 8 9 1)

平成25年度事業報告書目次

■協会の概要	
I.当法人の現況に関する事項	1
II.役員等に関する事項	6
III.会計監査人に関する事項	7
IV.業務の適正を確保するための体制等の整備についての決議	7
V.その他の重要事項	9
■公益目的事業1. ゴルフ競技会開催事業	
I.概況	10
II.開催競技及び競技参加者数	10
III.平成25年度競技の改善点	12
IV.競技開催実績	12
■公益目的事業2. ゴルフ普及振興事業	
I.調査・研究事業	19
II.セミナー・研修事業	20
III.交流・協力事業	21
IV.機関紙発行事業	21
V.その他のゴルフ普及振興事業	22
■その他の事業1. 収益事業 ハンディキャップ普及振興事業	
I.ハンディキャップ普及振興事業	22
II.JGAコースレート査定事業	23
■その他の事業2. 助成金事業	24
■むすび	24

事業報告書の附属明細書目次

■役員以外の法人等の業務執行理事との重要な兼職の状況	25
■その他の記載事項	25

監事の監査報告事項

■監事の監査報告事項	27
------------	----

■協会の概要

I.当法人の現況に関する事項

1.事業の経過及びその成果

単位:千円・%

事業別	予算額	決算額	達成率
事業費			
公益目的事業	161,506	151,929	94.0
その他の事業	32,208	32,117	99.7
法人会計	14,390	14,670	101.9
合計	208,104	198,716	95.5
経常増減額			
公益目的事業	▲15,621	▲13,285	85.0
その他の事業	14,105	10,158	72.0
法人会計	1,835	1,042	56.8
合計	319	▲2,085	—

(注)1.その他の事業(定款第5条):ハンディキャップ普及振興事業並びに助成金事業

2.資金調達等の状況

- (1)資金調達 :なし
(2)設備投資 :なし

3.直前3事業年度の財産及び損益の状況

単位:千円

区分	平成23年度 実績	平成24年度 実績	平成25年度 (当該事業年度)
経常増減の部	5,638	▲3,526	▲2,085
経常外増減の部	▲2,506	▲7,433	▲0
正味財産増減額	3,132	▲10,958	▲2,085
正味財産期末残高	38,941	27,983	25,898

直近の損益状況は、競技参加者数の減少を要因として経常増減の部は赤字の状況にある。平成23年度は、東日本大震災の影響による競技参加料収入の大幅減収を考慮して、経常収益・経常費用とも大幅な圧縮予算とした。結果的には、競技参加料収入の減収幅は予算対比で好転したため、経常増減の部は黒字を達成した。平成24年度は、更に競技参加者数が減少し競技参加料収入は大幅予算未達となり、再び経常増減の部は赤字となった。平成25年度も競技参加人数の減少に歯止めが掛らず、競技参加料収入は予算対比で大幅未達、経常費用圧縮を行ったが赤字となった。

4.主要な事業内容

事業	主要な内容
公益目的事業(定款第4条) 【公益目的事業 1】 ゴルフ競技会開催事業	国民の健康の保持増進、余暇活動の充実、青少年の健全な育成等豊かな国民生活の実現への寄与を目的とし、アマチュアゴルファーによるゴルフ競技会を開催して、生涯スポーツのゴルフの普及振興を図る事業 (事業の内容) ・ゴルフの普及振興、ゴルフ競技会の開催、並びに技術向上の機会提供事業

公益目的事業(定款第4条) 【公益目的事業 2】 ゴルフ普及振興事業	国民の健康の保持増進、余暇活動の充実、青少年の健全な育成等豊かな国民生活の実現への寄与を目的とし、ゴルフに関するセミナー・研修、交流・協力、調査・研究事業を行い、生涯スポーツであるゴルフの普及振興を図る事業 (事業の内容) ・ゴルフに関する調査・研究、及びセミナー・研修会開催事業 ・ゴルフ界諸団体との交流・連携を通じたゴルフ普及振興事業 ・ゴルフの普及振興のため機関紙、及び学術図書の発行事業
その他の事業(定款第5条) 【収益事業】 ハンディキャップ普及振興事業	アマチュアゴルファーがゴルフを楽しむための前提となる、公平な統一ハンディキャップの普及振興、及びその前提となるコースレート査定事業 (事業の内容) ・公平な統一ハンディキャップの普及振興事業 ・コースレート査定事業
その他の事業(定款第5条) 【助成金事業】	ジュニアゴルファーの育成を目的に活動する、ゴルフ界2団体に対する助成金事業 (事業の内容) ・ゴルフ界2団体に対する助成金事業

5.事業体系

事業	実施事業
【公益目的事業 1】 ゴルフ競技会開催事業	I.スクラッチ競技
	1. 全日本パブリックアマチュアゴルフ選手権競技
	2. 全日本女子パブリックアマチュアゴルフ選手権競技
	3. 全日本シニアパブリックアマチュアゴルフ選手権競技
	4. 全日本女子シニアパブリックアマチュアゴルフ選手権競技
	5. 全日本ミッドシニアパブリックアマチュアゴルフ選手権競技
	6. 全日本パブリックミッドアマチュアゴルフ選手権競技
	II.アンダーハンディ競技
	1.アンダーハンディ競技(予選) (1)PGSスポンサー杯 (2)PGSハンディ杯
	2.アンダーハンディ競技(決勝) (1)ダンロップ杯 (2)ブリヂストン杯 (3)グランドマンズリー
	3. PGSドリーム・エイジゴルフ大会
	4. PGS西日本月例杯
	5. PGS中部日本地区月例杯(みんなでうきうき旅ゴルフ)
	6. PGS東日本クラブ対抗戦
7. PGS中部日本クラブ対抗戦	
【公益目的事業 2】 ゴルフ普及振興事業	1. 調査・研究事業
	2. セミナー・研修事業
	3. 交流・協力事業
	4. 機関紙発行事業
	5. その他のゴルフ普及振興事業
【その他の事業 1】 収益事業	1. 公平な統一ハンディキャップの普及振興事業
	2. コースレート査定事業

ハンディキャップ普及振興事業	
【その他の事業 2】 助成金事業	1. 業界2団体に対する助成金事業

6.主たる事務所の状況

名称	所在地
公益社団法人日本パブリックゴルフ協会事務局	東京都中央区銀座1-19-16 銀座昭和ビル2階B室

7.主要な借入先及び借入額

借入先	借入額	償還期限等
なし		

8.重要な契約に関する事項

(1)会社役員賠償責任保険並びに賠償責任保険契約の締結

契約年月日	保険の名称	支払限度額
平成25年4月1日	会社役員賠償責任保険	3億円
保険料	保険会社	保険期間
290,000円	三井住友海上火災保険株式会社	平成26年4月1日
契約年月日	保険の名称	支払限度額
平成25年4月1日	賠償責任保険	3億円
保険料	保険会社	保険期間
164,860円	三井住友海上火災保険株式会社	平成26年4月1日

(2)スロープレーティング使用契約の締結

契約年月日	契約先	契約金額
平成25年11月11日	公益財団法人日本ゴルフ協会	スロープレーティング使用料 @50,000円(税込)/コース
契約期間	契約の概要	
毎年1月1日 ～12月31日	New J-sys に登録のある加盟コースのスロープレーティング使用料	

9.会員に関する事項

(1)会員数

単位:団体

種類	前年度末	当年度末	増減
正会員	81	81	0
賛助会員	8	7	▲1
合計	89	88	▲1

(2)地区別正会員数

単位:団体

東日本地区	中部日本地区	西日本地区	北海道・青森地区	合計
32	11	34	4	81

(3)入退会の状況

単位:団体

	区分	会員数	会員名
入会	正会員	3	新君津ベルグリーンカントリー倶楽部(東日本地区) 大麻生ゴルフ場(東日本地区) デイスターゴルフクラブ(東日本地区)

退会	正会員	3	ラ・ヴィスタ ゴルフリゾート(東日本地区) 旭パブリックゴルフコース(西日本地区) ムーンレイクゴルフクラブ鞍手コース(西日本地区)
	賛助会員	1	株式会社スズケン

(4) 会員数の推移

単位: 団体

年度	正会員			賛助会員		
	入会	退会	会員数	入会	退会	会員数
平成23年度	0	6	83	0	0	6
平成24年度	1	3	81	2	0	8
平成25年度	3	3	81	0	1	7

(5) 正会員の變動

① 運営会社変更

会員名	新運営会社	旧運営会社
セントレジャーゴルフクラブ千葉	PGM ホールディングス株式会社	株式会社セントレジャー・マネージメント
セントレジャーゴルフクラブ定光寺	株式会社定光寺カントリークラブ	株式会社セントレジャー・マネージメント
セントレジャーゴルフクラブ鞍手	PGM ホールディングス株式会社	株式会社セントレジャー・マネージメント

② 会員名変更

新会員名	旧会員名
ムーンレイクゴルフクラブ鶴舞コース	セントレジャーゴルフクラブ千葉
定光寺カントリークラブ	セントレジャーゴルフクラブ定光寺
ムーンレイクゴルフクラブ鞍手コース	セントレジャーゴルフクラブ鞍手

10. 職員に関する事項

平成26年3月31日現在

職名等	氏名	就任年月日	担当事務	備考
事務局次長	中村 知則	平成21年4月 1日	競技担当	常勤
一般事務	村松 洋子	平成17年3月14日	競技担当	常勤
一般事務	小路美智代	平成20年5月 1日	経理・財務担当	常勤
一般事務	小山内美枝	平成21年2月24日	総務担当	常勤

11. 役員会等に関する事項

(1) 平成25年度定時社員総会

通常社員総会	開催日	開催場所
	平成25年6月10日	八重洲富士屋ホテル
(議事事項)		
決議事項	第1号議案	平成24年度事業報告書(案)承認の件
	第2号議案	平成24年度財務諸表及び附属明細書並びに財産目録(案)承認の件
報告事項	第1号議案	平成25年度事業計画書報告の件
	第2号議案	平成25年度正味財産増減予算報告の件

(2) 理事会

	開催日	開催場所
第1回	平成25年 6月10日	八重洲富士屋ホテル
第2回	平成25年11月21日	ホテル レオパレス名古屋
第3回	平成26年 3月13日	東日本ホテル宇都宮

(3) 全国運営委員会

	開催日	開催場所

第1回	平成25年 8月23日	東京コンベンションホール
第2回		中止

(4)財務委員会

	開催日	開催場所
第1回		中止

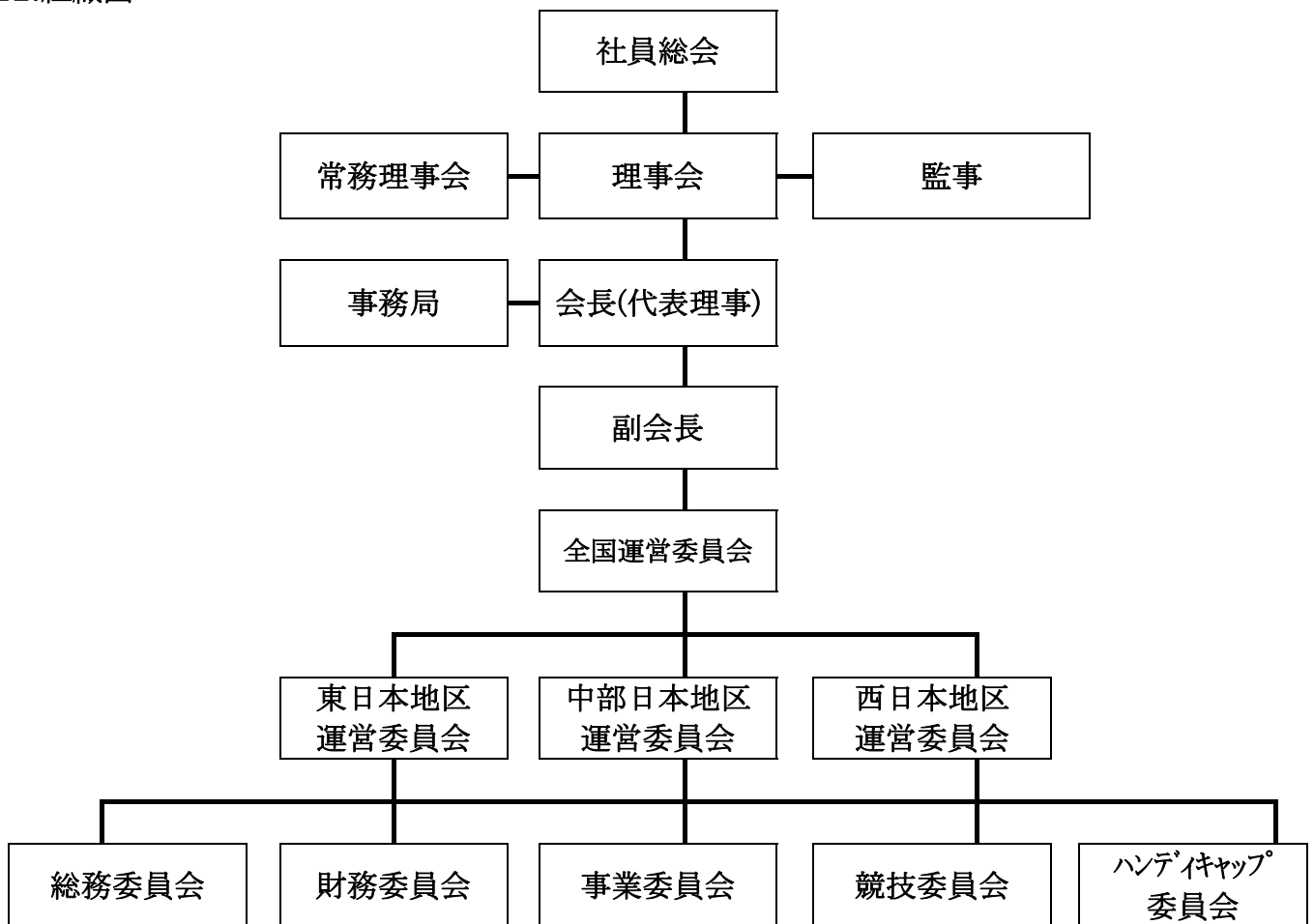
(5)スポンサー会議

	開催日	開催場所
第1回	平成25年10月17日	ウインザーパークゴルフアンドカントリークラブ

(6)監事会

	開催日	実施場所・内容
第1回	平成26年 5月26日	協会事務局 平成25年度決算報告書の監査他

12.組織図



13.許可、認可、承認等に関する事項

申請年月日	申請事項	許可等年月日	備考
なし			

14.株式の保有状況 :なし

15.対処すべき課題

(1)競技参加者数の拡大

競技参加者数は、平成19年度をピークとして以降は減少傾向にある。平成25年度はスクラッチ競技15,154名、アンダーハンディ競技18,329名、合計33,483名で前年度対比626名減少(▲1.8%)した。

継続的な競技参加者数の減少は、収支状況並びに財政構造の悪化を招来し、協会事業の安定的運営上懸念が生じるので、競技参加者数の拡大は喫緊の課題である。公益法人認可を機に、平成23年度通常社員総会において「今後の事業活動の基本方針」を決議したが、メイン競技であるパブリック選手権を往年の1万人台の参加者数に復活させ、更には2万人、3万人と規模の拡大を期すとしている。更に今後は国内競技だけに留まることなく、海外に目を向けた事業展開を検討中である。

(2) JGA/USGA ハンディキャップインデックス取得者の拡大

ゴルフは年齢・性別・技量の異なる者同士でも対等に楽しめるスポーツであるが、それは公平な統一ハンディキャップが前提であり、全てのゴルファーは自分のゴルフ技量を公式な同一規定に基づくハンディキャップで正しく示す責任がある。当協会のJGA/USGAハンディキャップインデックス取得者は約2万名で、高額なゴルフ会員権の取得を必要とせず、誰でも低廉な登録料で手軽に取得できる点から、多くのアマチュアゴルファーに支持を得ている。

公益法人においては、公益目的事業は基本的には収支トントンが目途となり、収益事業であるハンディキャップ普及振興事業の安定的運営により、協会事業活動の安定性が担保されるので、ハンディキャップ取得者の拡大も、競技参加者数の拡大と同様に喫緊の課題である。

(3) 正会員・賛助会員の拡大

協会加盟正会員100団体の実現は長年の課題であるが、直近の正会員数の推移は平成21年度の90団体をピークとして、平成25年度末には81団体まで減少した。係る状況を勘案して、平成26年度は正会員勧誘活動を強化・推進する。

II. 役員等に関する事項

1. 理事

平成26年3月31日現在

役職名	氏名	区分	任期	常勤・非常勤	報酬等
会長(代表理事)	三野 哲治	代表理事	平成26年6月	非常勤	無償
副会長 競技委員会委員長	石井 信成	常務理事	平成26年6月	非常勤	無償
副会長 事業委員会委員長	三治 明	常務理事	平成26年6月	非常勤	無償
副会長 ハンディキャップ委員会委員長	西村 潔	常務理事	平成26年6月	非常勤	無償
専務理事	島田 忠次	専務理事	平成26年6月	常勤	有償
総務委員会委員長	三浦 光男	常務理事	平成26年6月	非常勤	無償
財務委員会委員長	笠原 泰夫	常務理事	平成26年6月	非常勤	無償
事業委員会副委員長	林 一郎	常務理事	平成26年6月	非常勤	無償
事業委員会副委員長	加藤 義孝	常務理事	平成26年6月	非常勤	無償
事業委員会副委員長	六車洋二郎	常務理事	平成26年6月	非常勤	無償
競技委員会副委員長	神戸 誠	常務理事	平成26年6月	非常勤	無償
競技委員会副委員長	久保田英示	常務理事	平成26年6月	非常勤	無償
競技委員会副委員長	森 章次	常務理事	平成26年6月	非常勤	無償
ハンディキャップ委員会副委員長	西 治彦	常務理事	平成26年6月	非常勤	無償

ハンディキャップ委員会副委員長	小野 和彦	常務理事	平成26年6月	非常勤	無償
	伊藤 哲夫	理事	平成26年6月	非常勤	無償
	木村 妙子	理事	平成26年6月	非常勤	無償
	久保田誠一	理事	平成26年6月	非常勤	無償
	小林 寛道	理事	平成26年6月	非常勤	無償
	小林 弘実	理事	平成26年6月	非常勤	無償
	中元紘一郎	理事	平成26年6月	非常勤	無償
	平山 伸子	理事	平成26年6月	非常勤	無償
	雪野 智世	理事	平成26年6月	非常勤	無償

以上23名

(注)理事の他の法人等の代表状況等、並びに兼職状況は「事業報告の附属明細書」に記載した。

2. 監事

平成26年3月31日現在

	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬等
監事	豊原 正嗣	平成26年6月	非常勤	無償
監事	菅野 孝男	平成26年6月	非常勤	無償
監事	大田 英二	平成26年6月	非常勤	無償

以上3名

(注)監事の他の法人等の代表状況等、並びに兼職状況は「事業報告の附属明細書」に記載した。

3. 顧問

平成26年3月31日現在

	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬等
顧問	石井 幸成	平成26年6月	非常勤	無償
顧問	浅井 光昭	平成26年6月	非常勤	無償
顧問	丸山 信久	平成26年6月	非常勤	無償

以上3名

4. 役員等の報酬等

区分	人数	報酬等の総額	備考
専務理事	1名	非公開(個人情報)	常勤

(注)理事の報酬限度額は、「役員等報酬規程」において年額900万円以内と規定されている。

Ⅲ. 会計監査人に関する事項

当協会は、会計監査人の設置義務なし(公益法人認定法第5条第12号)

Ⅳ. 業務の適正を確保するための体制等の整備についての決議

(1)平成25年度第1回理事会(平成25年6月10日開催)にて決議

(2)理事会決議の内容

企業統治体制「業務の適正を確保するための体制等の整備について」

【企業統治体制の採用理由】

一般社団法人及び一般財団法人に関する法律(以下、一般法という)(第90条第4項5)は、「業務の適正を確保するための体制」、いわゆる企業統治体制(内部統制システム)の構築を定めている。当協会は、ゴルフの普及振興という事業活動目的の下、社会からの信頼を得ることの重要性を認識

し、適法・適正かつ効率的な事業活動を遂行するため、一般法および法務省令(法人法施行規則第14条)に基づき、「業務の適正を確保するための体制」を以下の通り定める。

【業務の適正を確保するための体制の概要】

当協会の理事会は、理事23名(平成25年6月10日現在)で構成している。業務執行に関しては、会長(代表理事)を含む、各事業部門を統括する常務理事(各委員会委員長5名、及び各委員会副委員長8名)があたっており、常務理事及び理事並びに理事会の機能及び責任を明確にするとともに、急激な事業活動環境の変化に迅速に対応するため、当該企業統治の体制を採用する。

当協会の理事会は原則として年3回開催し、必要に応じて臨時理事会を開催しつつ、重要事項の決定、業務執行状況の監督を行っている。さらに、一般社員(会員)と利益相反が生じる怖れない外部理事8名(平成25年6月10日現在)、並びに外部監事1名(平成25年6月10日現在)を確保し、事業活動の妥当性の監督強化を行っている。

監事については、いずれも会計業務に精通した監事3名で構成され、その内の1名は外部監事であり、各監事及び内部監査機能を有機的に融合させ、企業統治の適正性の確保を図っている。なお、会計業務は外部の会計事務所に委託し、適正性を維持している。

以上により、現状の体制によって事業運営の透明性の確保、理事の第三者説明責任の遂行といった、企業統治の基本原則を順守できるものとする。

【「業務の適正を確保するための体制等の整備」の内容】

I.理事の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

- 1.理事会を原則として年3回開催することに加え必要があるときは随時開催し、重要な業務執行に関する意思決定を行うとともに、理事の職務執行を監督する。
- 2.法令等の遵守と企業倫理の徹底は事業活動の原点であるとの認識のもと、行動規範およびコンプライアンス規程を制定する。その内容について会長(代表理事)、並びに各理事が職員への周知を図り、法令遵守をあらゆる事業活動の前提とすることを徹底する。
- 3.財務報告の適正性を確保するため、会長(代表理事)および理事は職員に対し、適正な財務諸表の作成が極めて重要性を有するものであることを、あらゆる機会に認識させるよう努めるものとする。
また、財務諸表作成のプロセスにおいて、虚偽記載並びに誤謬等が生じないよう各職員が相互に牽制するシステムを構築するものとする。
- 4.監事は、内部統制の整備状況を監査し、会長(代表理事)と定期的に情報および意見の交換を行う。

II.理事の職務の執行に係る情報の保管および管理に対する体制

文書管理規程を定め、理事の職務の執行に係る理事会の議事録、決裁書類並びに契約書類は、文書または電磁的記録(以下、「文書等」という)により、それぞれ法令または規程に定める期間保存・管理する。

III.損失の危険の管理に関する規程その他の体制

- 1.当協会を取り巻く様々な潜在的リスクについては、それらのリスクを分析しその特性に応じた対応策を講じるとともに、定期的にその有効性について評価し必要に応じて見直しを行う。
- 2.各理事は、自らの職務分掌範囲のリスク管理について責任を持つとともに、協会全体に及ぶリスクに対しては、必要に応じて専門委員会を設置し総合的な対応を図る。

IV.理事の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

定例の理事会を年3回開催するほか、必要に応じて臨時理事会を開催し、重要事項の決定および職務執行に関する基本事項の意思決定を機動的に行う。

また、理事および職員が業務分掌・職務権限規程に基づき、職務の執行が適正かつ効率的に行われる体制をとるものとする。

V. 職員の職務の執行が法令および定款に適合することを確保するための体制

1. 服務規程、コンプライアンス規程等を整備し、職員の法令・企業倫理の遵守を徹底する。
2. 業務における適法・適正な手続き・手順を明示した規程類を整備し運用する。
3. 適法・適正な業務運営が行われていることを確認するため、内部監査機能による監査を実施する。

VI. 監事はその職務を補助すべき職員を置くことを求めた場合における当該職員に関する事項
当協会において、監事の職務を補助すべき職員は当面配置しない。但し、監事会から当該職員の配置を求められた場合は、専任の担当者を配置し、かつ専任者の独立性を確保する体制とする。

VII. 監事の職務を補助すべき職員の理事からの独立性に関する事項

1. 監事補助スタッフの職務執行については、理事の指揮命令からの独立性を確保する。
2. 監事補助スタッフの人事に関する事項については、必要に応じて監事の意見を尊重する。

VIII. 理事および職員が監事に報告をするための体制その他の監事への報告に関する体制

1. 理事および職員は、当協会に重大な影響を及ぼす事項、内部監査の実施状況に関する事項等の内容を、監事に速やかに報告する。
2. 監事会による業務執行理事並びに理事、その他使用人から随時個別にヒアリングする機会を積極的に設け、さらに、会長(代表理事)および監事会との間において、定期的に意見交換する機会を設けるものとする。
3. 重要な会議には監事の出席を求めるとともに、議事録を作成する場合は、これを監事に送付する。

IX. 監事の監査が実行的に行われることを確保するための体制

1. 監事は業務執行状況を把握するため、理事会に出席するほか、必要に応じ重要な会議に出席できる。
2. 会長(代表理事)と監事との定期的な意見交換の実施や、内部監査部署と監事との緊密な関係などにより、当協会の業務の適正性確保のため必要な措置を講じることができるものとする。

以上に関連する規程・規則等は、平成23年度第1回理事会(平成23年6月13日開催)に於いて決議済である。

V. その他の重要事項

1. 全日本パブリック選手権のTV放映

平成25年度競技全日本パブリック選手権全日本大会[よみうりゴルフウエストコース(兵庫県)]、全日本女子パブリック選手権全日本大会[アリジカントリークラブ花垣コース(三重県)]の模様をTV放映した。

2. 東日本大震災に対する復興支援活動

(1) ゴルフ業界の復興支援活動

平成23年3月に発生した東日本大震災は、東北地方を中心に大きな被害をもたらした。ゴルフ

界の復興支援活動は、平成23年4月に日本ゴルフサミット会議を中心に、他にゴルフ界4団体の参画を得て、日本ゴルフ界合同・震災復興支援チャリティプログラムとして「グリーン・ティ・チャリティ(GTC) ～日本のゴルフが、日本のチカラに～」と銘打った復興支援プログラムがスタートした。義援金総額50億円を目標として、平成25年度まで3か年間に亘る息の長い復興支援活動を展開したが、平成26年3月を以って活動に終止符を打った。

(2) 当協会の復興支援活動

東日本大震災直後の平成23年3月17日に、平成22年度第4回理事会を開催し、公益社団法人の立場から、社会貢献活動の一環として東日本大震災の復興支援は責務であるとの決議により、義援金募集活動を開始した。その後、同年4月には前述の通り、日本ゴルフサミット会議を中心としたゴルフ界団体の復興支援活動(GTC)がスタートしたが、当協会の復興支援活動はGTCの一環として位置付け、平成25年度も活動を継続したが、「グリーン・ティ・チャリティ(GTC)の終了同様、平成26年3月を以って活動を終了した。

■公益目的事業1 ゴルフ競技会開催事業

I. 概況

当協会はゴルフの普及振興のためにゴルフ競技会開催事業を行っている。競技の参加資格は1. アマチュアゴルファーである、2. ハンディキャップは20.0程度以上の方が望ましいの2点であり、言わばアマチュアゴルファーであれば、誰もが日頃の研鑽の腕試しの場として出場できる、門戸の開かれた競技会である。

平成25年度の競技別参加者数は下表の通り、3大メイン競技のスクラッチ競技「パブリック選手権、シニア選手権、ミッドアマ選手権」は15,154名(前年度比▲373名、▲2.4%)、アンダーハンディ競技は18,329名(同▲253名、▲1.4%)、合計33,483名(同▲626名、▲1.8%)の参加を得た。

II. 開催競技及び競技参加者数

1. 開催競技

開催競技(略称)
I. スクラッチ競技
1. 第47回 全日本パブリックアマチュアゴルフ選手権競技(パ選)
2. 第13回 全日本女子パブリックアマチュアゴルフ選手権競技(女子パ選)
3. 第19回 全日本シニアパブリックアマチュアゴルフ選手権競技(シニア)
4. 第19回 全日本女子シニアパブリックアマチュアゴルフ選手権競技(女子シニア)
5. 第10回 全日本ミッドシニアパブリックアマチュアゴルフ選手権競技(ミッドシニア)
6. 第 7回 全日本パブリックミッドアマチュアゴルフ選手権競技(男子ミッドアマ)
7. 第 7回 全日本パブリックミッドアマチュアゴルフ選手権競技(女子ミッドアマ)
II. アンダーハンディ競技
1. アンダーハンディ競技(予選) (1)PGS スポンサー杯 (2)PGS ハンディ杯
2. アンダーハンディ競技(決勝) (1)ダンロップ杯 (2)ブリヂストン杯 (3)グランドマンズリー
3. PGSドリーム・エイジゴルフ大会(予選) (1)個人戦 (2)団体戦
4. PGSドリーム・エイジゴルフ大会(決勝) 個人戦
5. PGS西日本月例杯
6. PGS中部日本月例杯(みんなであきうき旅ゴルフ)

7.PGS東日本クラブ対抗戦

2.競技参加者数

単位:名

競技			平成23年度	平成24年度	平成25年度	前年度比
I.スクラッチ競技						
パブリック選手権	男女別	男子	6,313	6,269	5,808	▲ 461
		女子	762	790	821	31
		計	7,075	7,059	6,629	▲ 430
	地区別	東日本	3,050	3,362	3,013	▲ 349
		中日本	1,348	1,270	1,289	19
		西日本	2,583	2,322	2,222	▲ 100
		北海道・青森	93	102	103	1
		全日本シード	1	3	2	▲ 1
	計	7,075	7,059	6,629	▲ 430	
シニア選手権	男女別	男子	1,631	1,569	1,530	▲ 39
		女子	382	312	311	▲1
		ミッド	1,024	960	962	2
		計	3,037	2,841	2,803	▲ 38
	地区別	東日本	1,076	1,004	1,004	0
		中日本	876	878	951	73
		西日本	1,083	957	846	▲ 111
		北海道・青森	—	—	—	—
	全日本シード	2	2	2	0	
	計	3,037	2,841	2,803	▲ 38	
ミッドアマ選手権	男女別	男子	5,281	5,070	5,153	83
		女子	623	557	569	12
		計	5,904	5,627	5,722	95
	地区別	東日本	2,782	2,575	2,733	158
		中日本	1,271	1,269	1,251	▲ 18
		西日本	1,760	1,680	1,639	▲ 41
		北海道・青森	90	101	97	▲ 4
		全日本シード	1	2	2	0
	計	5,904	5,627	5,722	95	
合計			16,016	15,527	15,154	▲ 373
II.アンダーハンディ競技						
PGSスポンサー杯	ダンロップ杯(含決勝)		3,381	3,014	2,893	▲ 121
PGSハンディ杯 (予選・決勝計)	ブリヂストン杯(含決勝)		2,070	1,811	2,022	211
	サンレオ杯		768	644	485	▲ 159
	キャロウェイ杯		553	954	960	6
	ハンディ杯(含グラントマンズリー)		1,053	1,164	1,543	379
PGSドリーム・エイジゴルフ大会			713	532	747	215
PGS西日本月例杯			10,054	9,594	8,760	▲834
PGS中部日本月例杯(みんなできうき旅ゴルフ)			567	476	503	27
PGS東日本クラブ対抗戦			376	393	416	23
合計			19,535	18,582	18,329	▲253

総計	35,551	34,109	33,483	▲626
----	--------	--------	--------	------

Ⅲ.平成25年度競技の改善点

1.中部日本女子パブリック選手権開催方法の変更

中部日本女子パブリック選手権の開催方法を、予選開催せず地区決勝のみとし、2日間36ホールストロークプレーに変更した。

Ⅳ.競技開催実績

1.参加資格

競技名	参加資格	年齢資格
I.スクラッチ競技		
1.パ選	1.ハンディキャップ20.0程度以上が望ましい 2.日本ゴルフ協会ゴルフ規則に規定されたアマチュアゴルファー 3.高等学校までに在学の生徒は、学校長・保護者等責任者の参加許可証の提出が必要	なし
2.女子パ選		
3.シニア		男子55歳以上
4.女子シニア		女子50歳以上
5.ミッドシニア		男子65歳以上
6.ミッドアマ		男子、女子共30歳以上
II.アンダーハンディ競技		
1.アンダーハンディ競技(予選) (1)PGSスポンサー杯 (2)PGSハンディ杯	PGS会員で JGA/USGA ハンディキャップインデックス、又はPGSハンディキャップ取得者	なし
2.アンダーハンディ競技(決勝) (1)ダンロップ杯 (2)ブリヂストン杯 (3)グランドマンズリー		
3.PGSドリーム・エイジゴルフ大会(予選) (1)個人戦 (2)団体戦		
4.PGSドリーム・エイジゴルフ大会(決勝) 個人戦		
5.PGS西日本月例杯	PGS会員で JGA/USGA ハンディキャップインデックス、又はPGSハンディキャップ取得者 JGA/USGA ハンディキャップインデックス取得を目指すアマチュアゴルファー	なし
6.PGS中部日本月例杯 (みんなであきうき旅ゴルフ)		
7.PGS東日本クラブ対抗戦		

(注)PGS会員:JGA/USGA ハンディキャップインデックスの取得を目的とした会員組織で、誰でも会員になれる。

2.競技の概要

【スクラッチ競技】

[1]平成25年度第47回全日本パブリックアマチュアゴルフ選手権競技

平成25年度全日本パブリックアマチュアゴルフ選手権競技の参加者数は、男子5,808名(前年度比▲261名、▲7.4%)、女子821名(同+31名、+3.9%)、合計6,629名(同▲430名、▲6.1%)であった。

◆競技日程

1. 予選

地区	東日本	中部日本	西日本	北海道・青森	合計
予選数	35	16	36	3	91
参加者数(名)	2,597	1,198	1,910	103	5,808

2. 地区決勝

地区	開催コース	開催日	参加者数(名)
1.東日本 A	紫あやめ36	5/16(木)-17(金)	168
2.東日本 B	三井の森軽井沢カントリー倶楽部	5/20(月)-21(火)	150
3.東日本 C	八千代ゴルフクラブ	5/21(火)-22(水)	165
4.中部日本	グランシエロゴルフ倶楽部	5/22(水)-23(木)	151
5.西日本 関西	グランドオークプレイヤーズコース	5/16(木)-17(金)	165
6.西日本 中国	水島ゴルフリンクス	5/22(水)-23(木)	146
7.西日本 四国	コート・ベール徳島ゴルフクラブ	5/15(水)-16(木)	114
8.西日本 九州	セントレジャーゴルフクラブ鞍手	5/21(火)-22(水)	130
9.北海道・青森	随縁カントリークラブ恵庭コース	8/26(月)-27(火)	49
合計			1,238

3. 全日本

	開催コース	開催日	参加者数(名)
全日本	よみうりゴルフ ウェストコース	6/19(水)-20(木)	159

(注)全日本大会は荒天のため18ホールストロークプレーに短縮。

[2]平成25年度第13回全日本女子パブリックアマチュアゴルフ選手権競技

◆競技日程

1. 予選

地区	東日本	中部日本	西日本	合計
予選数	19	0	24	43
参加者数(名)	417	0	312	729

2. 地区決勝

地区	開催コース	開催日	参加者数(名)
1.東日本	千葉よみうりカントリークラブ	5/6(祝)	176
2.中部日本	グランシエロゴルフ倶楽部	5/9(木)-10(金)	85
3.西日本	武庫ノ台ゴルフコース	5/10(金)	171
合計			432

3. 全日本

	開催コース	開催日	参加者数(名)
全日本	アリジカントリークラブ 花垣コース	6/5(水)-6/6(木)	152

[3]平成25年度第19回全日本シニアパブリックアマチュアゴルフ選手権競技

平成25年度全日本シニアパブリックアマチュアゴルフ選手権競技の参加者数は、シニア男子1,5

30名(前年度比▲39名、▲2.5%)、シニア女子311名(同+1名)、ミッドシニア男子962名(同+2名、▲2.1%)、合計2,803名(同▲36名、▲1.3%)であった。

◆競技日程

1. 予選

地区	東日本	中部日本	西日本	合計
予選数	22	10	24	56
参加者数(名)	614	489	427	1,530

2. 地区決勝

地区	開催コース	開催日	参加者数(名)
1.東日本	那須野ヶ原カントリークラブ	9/25(水)-26(木)	97
2.中部日本	ウッドフレンズ森林公園ゴルフ場	9/26(木)-27(金)	93
3.西日本	米子ゴルフ場	9/25(水)-26(木)	83
合計			273

3. 全日本

	開催コース	開催日	参加者数(名)
全日本	ウインザーパークゴルフアンドカントリークラブ	10/16(水)-17(木)	71

(注)男子シニア、女子シニア、ミッドシニア：地区決勝、全日本は同日同会場で開催。

全日本大会は台風接近のため1日目を中止、18ホールストロークプレーに短縮し開催。

[4]平成25年度第19回全日本女子シニアパブリックアマチュアゴルフ選手権競技

◆競技日程

1. 予選

地区	東日本	中部日本	西日本	合計
予選数	9	7	11	27
参加者数(名)	121	101	89	311

2. 地区決勝

地区	開催コース	開催日	参加者数(名)
1.東日本	那須野ヶ原カントリークラブ	9/25(水)-26(木)	48
2.中部日本	ウッドフレンズ森林公園ゴルフ場	9/26(木)-27(金)	20
3.西日本	米子ゴルフ場	9/25(水)-26(木)	28
合計			96

3. 全日本

	開催コース	開催日	参加者数(名)
全日本	ウインザーパークゴルフアンドカントリークラブ	10/16(水)-17(木)	26

(注)男子シニア、女子シニア、ミッドシニア：地区決勝、全日本は同日同会場で開催。

全日本大会は台風接近のため1日目を中止、18ホールストロークプレーに短縮し開催。

[5]平成25年度第10回全日本ミッドシニアパブリックゴルフ選手権競技

◆競技日程

1. 予選

地区	東日本	中部日本	西日本	合計
予選数	12	10	20	42

参加者数(名)	269	361	332	962
---------	-----	-----	-----	-----

2. 地区決勝

地区	開催コース	開催日	参加者数(名)
1.東日本	那須野ヶ原カントリークラブ	9/25(水)-26(木)	63
2.中部日本	ウッドフレンズ森林公園ゴルフ場	9/26(木)-27(金)	68
3.西日本	米子ゴルフ場	9/25(水)-26(木)	70
合計			201

3. 全日本

	開催コース	開催日	参加者数(名)
全日本	ウインザーパークゴルフアンドカントリークラブ	10/16(水)-17(木)	38

(注)男子シニア、女子シニア、ミッドシニア：地区決勝、全日本は同日同会場で開催。

全日本大会は台風接近のため1日目を中止、18ホールストロークプレーに短縮し開催。

[6]平成25年度第7回全日本パブリックミッドアマチュアゴルフ選手権競技

最近のパブリック選手権は、ジュニア選手が上位を独占する傾向が顕著であり、アマチュアゴルファーの最も層が厚いミッド世代の競う競技として、平成17年度に西日本パブリックミッドアマ選手権競技がスタートした。また、平成19年度より参加者数も順調に増加し全日本を、平成20年度より地区決勝を立ち上げた。

平成25年度は男子の部5,153名(前年度比+83名、+1.6%)、女子の部569名(前年度比+12名、+2.2%)、合計5,722名(前年度比+95名、+1.7%)と、僅かながら増加傾向に転じた。

◆競技日程

1. 予選

地区	東日本	中部日本	西日本	北海道・青森	合計
予選数(男子)	32	11	34	3	80
予選数(女子)	16	7	17	—	40
合計	48	18	51	3	120
参加者数(男子)(名)	2,469	1,146	1,441	97	5,153
参加者数(女子)(名)	264	106	199	—	569
合計(名)	2,733	1,252	1,640	101	5,722

2. 地区決勝

地区	開催コース	開催日	参加者数(名)
1.東日本 A	オールドオーチャードゴルフクラブ	7/31(水)-8/1(木)	163
2.東日本 B	よみうりゴルフ倶楽部	7/22(月)-23(火)	170
3.中部日本	正眼寺カントリークラブ	7/29(月)-30(火)	131
4.西日本	ダンロップゴルフコース	7/25(木)-26(金)	173
5.北海道・青森	ダイナスティゴルフクラブ	7/26(金)	67

3. 全日本

	開催コース	開催日	参加者数(名)
全日本	ベアズパウ ジャパン カントリークラブ	9/18(水)-19(木)	161

【アンダーハンディ競技】

[1]PGSアンダーハンディ競技(予選) (1)PGSスポンサー杯、(2)PGSハンディ杯

[2]PGSアンダーハンディ競技(決勝) (1)ダンロップ杯、(2)ブリヂストン杯、(3)グランドマンズリー
平成25年度はPGSスポンサー杯85回、PGSハンディ杯20回、合計105回開催した。JGA・PGS
ハンディキャップ登録者は約2万名で、平成25年度の競技参加者数は、予選は6,630名(前年度
比+182名、+2.8%)と微増。決勝は1,273名(前年度比+134名、+11.8%)の増加となった。

◆競技日程

1. 予選

予選数		東日本	中部日本	西日本	合計
PGSスポンサー杯	ダンロップ杯	12	7	20	39
	ブリヂストン杯	8	5	9	22
	サンレオ杯	4	4	4	12
	キャロウェイ杯	3	5	4	12
PGSハンディ杯		10(2)	5	5	20(2)
合計		37(2)	26	42	105(2)

(注)()は北海道・青森地区の開催数で、東日本の内数

2. 予選参加者数

		東日本	中部日本	西日本	合計(名)
PGSスポンサー杯	ダンロップ杯	610	683	1,180	2,473
	ブリヂストン杯	405	575	681	1,661
	サンレオ杯	124	202	159	485
	キャロウェイ杯	158	468	334	960
PGSハンディ杯		500	363	188	1,051
合計		1,797	2,291	2,542	6,630

※北海道・青森地区は東日本に含み内数

3. 地区決勝

(1)ダンロップ杯

地区	開催コース	開催日	参加者数(名)
東日本	ムーンレイクゴルフクラブ市原コース	11/ 29(金)	116
中部日本	正眼寺カントリークラブ	11/7(木)	141
西日本	北神戸ゴルフ場	11/1(金)	163
合計			420

(2)ブリヂストン杯

地区	開催コース	開催日	参加者数(名)
東日本	市原ゴルフクラブ 柿の木台コース	平成26/3/10(月)	79
中部日本	名古屋広幡ゴルフコース	10/23(水)	165
西日本	姫路シーサイドゴルフコース	11/14(木)	117
合計			361

(3)グランドマンズリー

地区	開催コース	開催日	参加者数(名)
東日本	新玉村ゴルフ場	11/14(木)	148
中部日本	名古屋港ゴルフ倶楽部(富浜コース)	11/20(水)	184
西日本	よみうりゴルフ ウェストコース	11/27(水)	160

合計	492
----	-----

[3]PGSドリーム・エイジゴルフ大会(予選)

[4]PGSドリーム・エイジゴルフ大会(決勝)

高齢者の健康の保持増進への寄与は当協会の事業目的の一つであり、平成21年度より「PGSドリーム・エイジゴルフ大会」がスタートした。競技は65歳以上のゴルファーを対象とし、年齢ハンディキャップによる18ホールストロークプレーで競い、ゴルフと健康を結びつけたユニークな競技である。また、平成23年度より、ゴルフ市場活性化委員会(GMAC)の後援を受けている。

平成25年度は使用ハンディキャップをこれまでの「PGSドリーム・エイジハンディキャップ(年齢+歩行数によるハンディキャップ)」から、「年齢ハンディキャップ」に変更。予選20、及び3地区決勝を開催し、参加人数は予選611名、決勝136名、合計747名(前年度比+215名、+40%)と上向いた。

◆競技日程

1. 予選

予選開催数	東日本	中部日本	西日本	北海道・青森	合計
個人戦	8	7	4	—	19
団体戦	1	—	—	—	1
合計	9	7	4	—	20

(1)18ホール・ストロークプレー

2. 参加者数

単位:名

	東日本	中部日本	西日本	北海道・青森	合計
個人戦	330	161	90	—	581
団体戦	30	—	—	—	30
合計	360	161	90	—	611

3. 地区決勝

地区	開催コース	開催日	参加者数(名)
東日本	下館ゴルフ倶楽部	10/22(火)	68
中部日本	定光寺カントリークラブ	10/30(水)	40
西日本	西神戸ゴルフ場	10/29(火)	28
合計			136

(1)競技方法 :予選と同じ

(参考)PGSドリーム・エイジゴルフ大会チャリティ募金寄贈

平成25年度PGSドリーム・エイジゴルフ大会のチャリティ募金額は271,704円となった。参加者の善意は、予選コース最寄の社会福祉団体、および日本赤十字社に寄贈した。

[5]PGS西日本月例杯

PGS西日本月例杯は、アンダーハンディ競技の充実を図るためPGS会員を対象として、平成13年度にスタートした。以前は東日本・中部日本を含め全日本事業であったが、現在は西日本地区のみで開催している。

平成25年度は、開催数159回、参加者数は8,760名で、残念ながら前年度比で減少(▲834名、▲8.7%)した。

(地区別開催数及び参加者数)

	関西地区	中国地区	四国地区	九州地区	合計
開催数	86	44	25	4	159
申込人数(名)	3,324	3,457	1,782	197	8,760

(注)PGS会員:ハンディキャップの取得を目的とした当協会の会員組織で、誰でも会員になれる。

[6]PGS中部日本月例杯(みんなでうきうき旅ゴルフ)

平成21年度より、「PGS中部日本月例杯(みんなでうきうき旅ゴルフ)」がスタートした。ゴルファーは自分のゴルフ技量を、公正な同一規定に基づくハンディキャップで正しく示す責任がある。当協会は、わが国唯一の公認ハンディキャップのJGA/USGAハンディキャップインデックスの普及に努めており、アマチュアゴルファーの証である同ハンディキャップの一層の取得推進を目指した競技会である。

平成25年度は予選10開催、及び決勝を開催し参加者数は予選459名、決勝44名、合計503名。前年度比で+27名(+5.7%)であった。

◆予選

(1)開催会場 : 中部日本地区会員 : 10コース

(2)参加資格 ①アンダーハンディ競技 : PGS会員でJGA/USGAハンディキャップインデックスの取得者

②ダブルペリア競技 : PGS会員、及びJGA/USGAハンディキャップインデックス取得を目指すアマチュアゴルファー

(3)競技方法 ①18ホール・ストロークプレー(アンダーハンディ競技)

②ダブルペリア競技

(4)参加者数

	アンダーハンディ競技		ダブルペリア競技		合計
	男子	女子	男子	女子	
参加人数(名)	236	28	142	25	431

◆決勝

(1)開催日 : 平成26年3月17日(月)

(2)開催会場 : ウッドフレンズ森林公園ゴルフ場

(3)参加資格 : 予選通過者、及び特典(多回数参加者)によるシード選手

(4)競技方法 : 18ホール・ストロークプレー(アンダーハンディ競技)

(5)参加者数 : 男性41名、女子3名、合計44名

[7]PGS東日本クラブ対抗戦

平成21年度より東日本地区の協会競技として新たにスタートした。JGA/USGAハンディキャップインデックスの普及振興を目的とした東日本加盟会員コースのクラブ対抗戦で、4ブロック(ABCD)でブロック予選を開催し、各ブロックより男女各2チーム、決勝大会開催クラブより男女2チーム、及び前年度優勝クラブ代表の男女2チームを加えた、合計12チームで決勝大会を開催する。平成25年度は、ブロック大会には合計294名、決勝には122名、合計416名が参加した。

◆ブロック予選

(1)参加資格: 東日本地区会員コースの何れかでPGS会員登録をし、JGA/USGAハンディキャップインデックスを取得しているアマチュアゴルファー

(2)競技方法

①18ホールストローク・アンダーハンディ競技(JGA/USGAハンディキャップインデックス)

②ハンディキャップの下限 : 男子部門20.0、女子部門30.0

③順位決定 : 男子部門は出場選手の内、上位5名のネットスコア合計による

女子部門は出場選手の内、上位3名のネットスコア合計による

(3)開催日・会場・出場クラブ

ブロック	出場クラブ	ブロック予選	開催日
Aブロック	那須野ヶ原、イーストウッド、ハーモニーヒルズ、ウィンザーパーク、うぐいすの森水戸、下館、オールトオーチャード	オールトオーチャードゴルフクラブ	10月3日
Bブロック	古河、新玉村、前橋、上武、朝霞、妻沼、三井の森	前橋ゴルフ場	9月30日
Cブロック	市原、市原・柿の木台、ムーンレイク鶴舞、千葉よみうり、八千代、ムーンレイク市原、ラヴィスタ、紫あやめ36	ムーンレイクゴルフクラブ市原コース	10月4日
Dブロック	昭和の森、清里、小淵沢、富士見高原、篠ノ井、富士グリーンヒル、鹿島南蓼科	富士見高原ゴルフコース	10月30日

(4)ブロック予選代表チーム

各ブロック2クラブ(1クラブ男子部門8名、女子部門5名)

(注)決勝大会開催コース、前年度優勝クラブが上位2クラブに入賞した場合は、繰り下げて出場資格を付与する。

(5)参加者数

ブロック・開催コース	クラブ数	男子	女子	合計
Aブロック (オールトオーチャード)	10	48	20	68
Bブロック (前橋)	13	50	28	78
Cブロック (ムーンレイク市原)	14	56	35	91
Dブロック (富士見高原)	9	38	19	57
予選計	46	192	102	294
決勝	20	76	46	122
合計	66	268	148	416

◆決勝大会

(1)開催会場 :上武ゴルフ場(群馬県)

(2)開催日 :前夜祭 平成25年10月29日(火)／クラブ対抗戦 平成25年10月30日(水)

(3)参加資格 :①PGS 東日本各ブロック予選の男女各上位2クラブ

②決勝大会開催クラブ、及び前年度優勝クラブより各男女2クラブ

(4)チーム編成 :1クラブ 男子部門8名・女子部門5名

(5)競技方法 :ブロック予選と同様

(6)参加者数 :前掲の通り

■公益目的事業2 ゴルフ普及振興事業

I.調査・研究事業

公益社団法人認定を機に、メイン事業のゴルフ普及振興に加えて、ゴルフに関する調査・研究事業の充実を図り、その成果を世の中に広く情報発信する。東日本大震災の影響を受け、平成23年度より隔年実施としており平成25年度は実績なし。

(参考)直前2事業年度の調査・研究実績

年度	調査・研究内容
平成23年度	中止
平成24年度	ゴルファーの動態調査
平成25年度	休止(隔年実施)

II. セミナー・研修事業

本事業は、ゴルフの普及振興のためにセミナー・研修会を通じて、ゴルファーの啓蒙に資する、並びに一層質の高い競技会の実現を目指して、競技会の運営・競技委員を対象にゴルフ・ルール、コースセッティング方法等、競技会運営に係わる技術向上を目指した研修会を開催する。

1. 平成25年度セミナー事業

日時	平成25年6月10日	テーマ	2012 PGSゴルフ需要調査結果報告
場所	八重洲富士屋ホテル	講師	山岸 勝信(WAY企画 代表・GMAC 有識者委員)

(参考)直前3事業年度のセミナー開催実績

平成22年度	アンチエイジング・ゴルフという考え方	齋藤 真嗣(ニューヨーク州医師)
平成23年度		未開催
平成24年度		未開催

2. 平成25年度研修会事業

(1) JGA/USGA ハンディキャップシステム運用研修会

平成26年1月1日よりハンディキャップシステムの変更が予定されているが、公益財団法人日本ゴルフ協会(JGA)の協力を得て、JGA/USGA ハンディキャップシステム運用研修会を開催した。

日時	場所
1.平成25年10月 8日(火)	リーガロイヤルホテル広島
2.平成25年10月 9日(水)	科学技術館サイエンスホール
3.平成25年10月11日(金)	ホテルビアントス
4.平成25年10月18日(金)	リーガロイヤルホテル新居浜
5.平成25年10月30日(水)	ホテルモントレ仙台
6.平成25年11月15日(金)	キャッスルプラザ
7.平成25年11月26日(火)	北海きたえーる
8.平成25年11月27日(水)	とかちプラザ
9.平成25年11月29日(金)	ホテル阪急エキスポパーク
講師	公益財団法人日本ゴルフ協会 船越 寛 公益財団法人日本ゴルフ協会事務局 森田 勇樹

(2) グリーンキーパー研修会

日時	平成25年4月3日(水)	場所	アリジカントリークラブ花垣コース
テーマ	夏場のグリーン管理		
講師	ウッドフレンズ森林公園ゴルフ場 前田 宗明		
テーマ	インターシードによるグリーンコンディション向上について		
講師	セントレジャーゴルフクラブ定光寺 鈴木 薫		

(参考)直前3事業年度の研修会開催実績

年度	テーマ
平成22年度	ベントグリーン全面張替とコース管理

	2009年度コース管理について
平成23年度	名古屋港ゴルフ倶楽部(富浜コース)のコース管理について 土壌改善による健康な芝作り
平成24年度	夏季ベントグリーンの管理について グリーンの排水改善について

III.交流・協力事業

ゴルフ界を取り巻く環境は厳しいが、ゴルフ市場活性化のためにゴルフ界諸団体は連携・協力して様々な活動を展開する必要がある。この様な観点からゴルフ界諸団体と連携・協力して、ゴルフ市場の活性化に向けた活動を展開する。

1.日本ゴルフサミット会議

(1)2014年第1回日本ゴルフサミット会議

日時	平成26年1月22日(水) 10:00~11:15	内容	2014年活動テーマの決定 1)ゴルフ活性化への取り組み 2)ゴルフ界は社会貢献に積極的に取り組む 3)ゴルフ場利用税廃止運動の継続 4)国家公務員倫理規程における「ゴルフ」の削除
場所	ANAインターコンチネンタル ホテル東京		

(2)ゴルフ新年会の開催

日時 平成26年1月22日(水) 11:30~14:30

場所 ANAインターコンチネンタルホテル東京

(3)日本ゴルフサミット会議 運営会議参加

2.ゴルフ市場活性化委員会(GMAC)

(1)当協会はゴルフ市場活性化委員会(GMAC)の構成メンバーとして、「はじめよう」「続けよう」「もっとゴルフを」をスローガンにゴルフ業界の活性化に向けた活動をしている。平成23年度より「続けようゴルフを」にマッチする当協会の「PGSドリーム・エイジゴルフ大会」はGMACの後援を受け開催、他のテーマ「はじめようゴルフを」として「スクランブルゴルフの普及」、「もっとゴルフを」として「経済産業大臣杯全国チーム対抗戦」を各団体と連携して活動した。

(2)定例委員会への参加(毎月1回)

(3)ゴルフ市場活性化セミナーへの参画

(4)関西地区ゴルフ市場活性化委員会(関西 GMAC)への参加(毎月1回)

3.NPO法人日本ジュニアゴルファー育成協議会(JGC)

NPO法人日本ジュニアゴルファー育成協議会は、「ゴルフをツールとした子どもたちの健全育成」を原点に活動をしている。ゴルフ界諸団体は、連携して市場活性化に向けた活動をする必要があるが、同協議会のジュニアゴルファーの育成は青少年の健全な育成に加えゴルフ業界の裾野拡大が期待でき首肯できる。当協会は同協議会の構成メンバーとして、ジュニアゴルファーの育成に連携して活動した。

4.ジャパンゴルフフェア2014の後援・ブース出展

一般社団法人日本ゴルフ用品協会主催の第48回ジャパンゴルフフェア2014は、平成26年2月14日(金)~2月16日(日)の間、東京有明ビッグサイト東京国際展示場において開催されたが、当協会はこれを後援すると共にブースを出展し、当協会の事業活動のPRを実施した。

IV.機関紙発行事業

当協会主催競技に関して、競技開催案内、年間競技スケジュール、競技の様様、競技成績等を盛り込んだ機関紙「PGSニュース」を年1回(2月)発行した。従来は新聞形式で発行していたが、平成24年度より、冊子形式(A4版/全56ページ)に切り替えた。昭和48年創刊の「PGSニュース」は40年目を迎え、第81号を発刊。我が国のパブリックゴルフ史としても貴重な資料である。

V.その他のゴルフ普及振興事業

ゴルフ業界の長期的展望は少子高齢化の加速や人口減少から、市場規模は縮小化の方向にあり、引き続き経営環境は厳しいと予想される。この様な状況下、ゴルフ業界は一層連携を強化し、新規ゴルファーの育成、需要創出が喫緊の課題であり、当協会もゴルフ市場の活性化に向けゴルファーの底辺拡大施策等様々な取組みを推進した。

1.ジュニアゴルファー育成の取り組み

NPO法人日本ジュニアゴルファー育成協議会(JGC)の活動目的である、ジュニアゴルファーの育成は青少年の健全な育成に資するものであり、ゴルフ界にとっては裾野拡大の観点より重要な課題である。ジュニアゴルファーの育成は、ゴルフ界が連携して取り組む必要があり、当協会は同協議会の構成メンバーとして、ジュニアゴルファーの育成に連携して活動した。

2.他団体との協賛・後援事業

- (1)一般社団法人日本ゴルフ用品協会に対し後援 :第48回ジャパンゴルフフェア2014
- (2)日本ゴルフサミット会議に対し協賛 :2014年ゴルフ新年会
- (3)他団体競技の後援

競技名	主催者
第35回 ALL KANSAI テレビ アマチュアゴルフ選手権	(株)サンテレビジョン
第5回ウッドフレンズレディース アマ・プロゴルフ選手権競技 女子アマチュアの部	森林公園ゴルフ場運営会社(株)
第30回・第31回アオノジュニアゴルフ大会	青野運動公苑アオノゴルフコース
第21回・第22回すきっぷ 21:アオノ親子ゴルフ大会	青野運動公苑アオノゴルフコース
日刊アマゴルフ2013 全日本シングルプレーヤーズゴルフ選手権東日本大会	日刊スポーツ新聞社東京本社
日刊アマゴルフ2013 全日本シングルプレーヤーズゴルフ選手権北海道大会 全日本レディースゴルフ選手権北海道大会	北海道日刊スポーツ新聞社
2013年近畿オープンゴルフ選手権	サンケイスポーツ

■その他の事業1 収益事業 ハンディキャップ普及振興事業

I.ハンディキャップ普及振興事業

1.自分のゴルフ技量を正しく示すことはゴルファーの責任

ゴルフは年齢・性別・技量の異なる者同士でも対等に楽しめるスポーツである。それは公平な統一ハンディキャップ(JGA/USGAハンディキャップインデックス:国際ゴルフ・ルールに基づき公益財団法人日本ゴルフ協会が発給)が前提である。ゴルファーは自分のゴルフ技量を公式な同一規定に基づくハンディキャップで正しく示す責任があり、同ハンディキャップインデックスは日本で唯一の公認ハンディキャップであり、当協会はアマチュアゴルファーに対して、ゴルファーの証とも言えるJGA/USGAハンディキャップインデックスの普及振興を推進している。

また、公平な統一ハンディキャップは、競技主催団体にとってはアンダーハンディ競技会の適正、公正な運営の前提条件でもある。当協会のJGA/USGAハンディキャップインデックス取得者は約21,000名で、高額なゴルフ会員権の取得を必要とせず、誰でも低廉な登録料でPGS会員になることにより、手軽に取得できる点から多くのアマチュアゴルファーの支持を得ている。

2.「USGA コースレーティングシステム」、「USGA ハンディキャップシステム」の導入

公益財団法人日本ゴルフ協会(JGA)は、平成24年よりUSGAが開発・所有し、世界の約60カ国と地域で採用されている、「USGA コースレーティングシステム」(通称スロープシステム)、および「USGA ハンディキャップシステム」の導入を決定した。

USGA ハンディキャップシステムの導入に伴い、コースレーティングもこれまでのJGA方式からUSGA方式に変更となり、改めてコース査定を行い算出されたスロープレーティングを、平成24年より順次付与することになった。スロープレーティングの普及により、ゴルファーはこれまで以上に公平なハンディキャップによってゴルフを楽しむことが可能となり、ひいてはプレー回数やゴルフ人口の増加などゴルフの更なる普及に繋がることが期待される。

また、USGAハンディキャップシステムでは、平成26年からハンディキャップ査定スコアカード枚数が、現行の10枚から5枚に変更される。

当協会もJGAの動きに連動して、順次協会加盟会員コースのスロープレーティングの査定を進め、USGAハンディキャップシステムの導入を推進している。

3.JGA/USGA ハンディキャップインデックス取得者の推移

単位:名

平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
20,262	25,451	23,471	24,663	24,974
平成23年度	平成24年度	平成25年度	(前年度比)	
23,371	20,137	19,468	(▲ 669)	

4.JGA/USGA ハンディキャップインデックス(J-sys)導入状況

(平成18年4月現在)

(平成26年3月現在)

単位:コース

	東	中部	西	合計		東	中部	西	北・青	合計
JGA HDCP	31	10	21	62	⇒	31	11	34	4	80
PGS HDCP	2	1	21	24		1	0	1	0	2
合計	33	11	42	84		32	11	35	4	82

II. JGAコースレート査定事業

公平な統一ハンディキャップであるJGA/USGAハンディキャップインデックスの普及振興のためには、その前提としてゴルフ場のコースレーティングが正確に査定されている必要がある。当協会はコースレート査定を管轄する公益財団法人日本ゴルフ協会(JGA)に対してコースレート査定を希望する会員パブリックゴルフ場の依頼に基づき、同協会への申請窓口として機能している。

平成25年度は、次の15コースでコースレート査定を実施した。

東日本地区	西日本地区	中部日本・北海道・青森地区
1.大麻生ゴルフ場 2.うぐいすの森ゴルフクラブ水戸 3.オールドオーチャードゴルフコース 4.富士見高原ゴルフコース 5.古河ゴルフリンクス 6.市原ゴルフクラブ柿の木台コース	1.北神戸ゴルフ場 2.ダンロップゴルフコース 3.琵琶湖レークサイドゴルフコース	1.正眼寺カントリークラブ

7.新君津ベルグリーンカントリー倶楽部 8.新玉村ゴルフ場 9.ウインザーパークゴルフアンドカントリークラブ 10.デイスターゴルフクラブ 11.八千代ゴルフクラブ		
--	--	--

■その他の事業2 助成金事業

本事業はゴルフの普及振興のために、ジュニアゴルファーの育成を目的に活動するゴルフ界2団体に対して、助成金事業を実施するものである。

1.NPO法人日本ジュニアゴルファー育成協議会(JGC)

当協議会はゴルフをツールに児童・青少年の健全な育成を目的に活動している。ジュニアゴルファーの育成は青少年の健全育成、並びにゴルファーの底辺拡大の観点から首肯でき、同協議会の活動目的に賛同して助成金事業を実施し活動をバックアップしてきた。近年の競技参加者数の減少から協会収支・財政状況が逼迫しており、平成23～24年度は休止したが、平成25年度より復活した。

2.一般社団法人日本高等学校ゴルフ連盟

当連盟は高等学校教育の一環であるクラブ活動を通じて、心身を鍛え、社会生活を営むに相応しい生徒を育てること、ゴルフ界の健全な発展へ寄与することを目的に活動している。同連盟の活動目的に賛同して助成金事業を実施し活動をバックアップしてきた。近年の競技参加者数の減少から、協会収支・財政状況が逼迫しており、残念ながら平成23年度以降廃止した。

むすび

1.平成25年度事業の回顧と展望

平成25年度競技の概況は前述の通り、スクラッチ競技の参加者数は15,154名(前年度比▲373名、▲2.4%)、アンダーハンディ競技は18,329名(同▲253名、▲1.4%)、合計33,483名(同▲626名、▲1.8%)と前年度比で減少し、ここ数年の減少傾向に歯止めをかけることができなかった。創立50周年を機に、「今後の事業活動基本方針」に沿った新たな事業分野等を検討した結果の一施策として、今後は国内だけに留まることなく海外に目を向けた事業を展開し、パブリック選手権を往年の1万人台の参加者数に復活させ、更には2、3万人と規模拡大を目指したい。

以上

事業報告書の附属明細書

■役員その他の法人等の業務執行理事との重要な兼職の状況

平成26年3月31日現在

区分	氏名	兼職先法人等	兼職の内容	関係
理事(代表理事)	三野 哲治	住友ゴム工業株式会社	会長	
		公益社団法人スポーツ健康産業団体連合会	理事	
		公益社団法人関西経済連合会	評議員	
		公益財団法人住友電工グループ社会貢献基金	評議員	
		公益財団法人ひょうごコミュニティ財団	評議員	
理事	石井 信成	公益社団法人全日本ゴルフ練習場連盟	会長	
		株式会社那須野ヶ原カントリークラブ	代表取締役社長	
理事	三治 明	株式会社三治製作所	代表取締役会長	
		株式会社正眼寺カントリークラブ	代表取締役社長	
理事	西村 潔	株式会社京阪ゴルフ倶楽部	理事長	
理事	三浦 光男	読売ゴルフ株式会社	代表取締役社長	
理事	加藤 義孝	東名ゴルフ株式会社	代表取締役社長	
理事	六車洋二郎	株式会社コート・ベール徳島	代表取締役社長	
理事	森 章次	公益社団法人社納税協会	理事	
		株式会社アオノリゾート	代表取締役社長	
理事	伊藤 哲夫	伊藤公認会計士事務所	公認会計士	
監事	菅野 孝男	常和ゴルフマネジメント株式会社	代表取締役	
監事	大田 英二	株式会社チュウブ	代表取締役社長	
監事	豊原 正嗣	豊原会計事務所	公認会計士	

(注)当協会にとって兼職先法人等が重要な法人である、並びに当該役員が兼職先の法人等で重要な職務を担当している場合を記載している。

■その他の記載事項

1.定款に定める事業内容について補足すべき重要な事項

- (1)定款第5条で「(その他の事業) (2)ゴルフ関係諸団体に対する助成金事業」を定めている。従来、ジュニアゴルファーの育成を目的に活動するゴルフ界2団体[NPO法人日本ジュニア育成協議会(JGC)、並びに一般社団法人日本高等学校ゴルフ連盟]に対して、活動支援の観点から助成金事業を行ってきたが、近年の競技参加者数減少による収支状況悪化から、一般社団法人日本高等学校ゴルフ連盟に対しては、平成23年度以降休止している。
- (2)定款第4条で「(公益目的事業) (2)ゴルフに関する調査・研究、及びセミナー・研修会の開催事業」を定めている。平成25年度の調査・研究事業、並びに研修会開催は前述の通りである。
- (3)正味財産の増減の状況及び財産の増減の推移について補足すべき重要な事項

①経常増減の部

平成23年度は、東日本大震災の影響による競技参加者数の大幅減少懸念から、超緊縮補正予算編により対処、結果的には5,638千円の黒字を確保、然しながら平成24年度は引続きの競技参加者数減少から3,526千円の赤字、平成25年度も競技参加者数の減少に歯止めが掛らず2,085千円の赤字を計上した。

(平成25年度経常増減の部の主たる赤字要因)

◎競技参加料収入の予算未達 :▲5,526 千円

競技	競技参加料収入 (千円)			参加者数 (名)		
	予算	実績	差異	予算	実績	差異

パ選	46,800	39,774	▲ 7,026	7,100	6,629	▲471
シニア	17,100	16,818	▲ 282	2,850	2,803	▲ 47
ミッドアマ	33,900	34,332	432	5,650	5,722	72
UH	12,150	12,494	344	7,650	7,905	255
ドリーム	1,300	2,306	1,006	520	747	227
合計	111,250	105,724	▲5,526	23,770	23,806	36

②経常外増減の部

平成23年度は公益法人移行費用、平成24年度は同費用に加えて創立50周年記念史発行費用である。平成25年度は経常外取引はなし。

③正味財産増減額

以上の結果、正味財産増減額の推移は平成23年度3,132千円の黒字、平成24年度および平成25年度は各10,958千円、2,085千円の赤字を計上。正味財産期末残高は平成25年度末現在25,898千円にあり、収支・財政再建が喫緊の課題である。

④平成26年度の収支・財政再建策

- 1) 新規に地区決勝・全日本大会の競技参加料を3,000円徴収(収入増加期待額10,800千円)
- 2) 外部団体への助成金申請(3事業:申請額11,635千円)等の対策により、経常増減の部12,184千円の黒字を計画。

2.重要な固定資産の明細

(1)特定資産

退職給付引当預金の増減額及びその残高は次の通り。

単位:円

	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
退職給付引当預金	3, 865, 226	1, 148, 048	256, 700	4, 756, 574

(2)その他の固定資産

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は次の通り。

単位:円

	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
競技用備品	3, 150, 000	3, 149, 999	1
ソフトウェア	3, 498, 600	2, 689, 890	808, 710
合計	6, 648, 600	5, 839, 889	808, 711

3.引当金の明細

(1)退職給与及び退職給付引当金の残高は次の通り。

単位:円

	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
退職給付引当金	1, 065, 086	748, 028	256, 700	1, 556, 414
退職給与引当金	2, 800, 140	400, 020	0	3, 200, 160
合計	3, 865, 226	1, 148, 048	256, 700	4, 756, 574

退職給付引当金については、別途中小企業退職金事業本部に掛金積立を行っており、平成26年3月31日現在の退職金試算額は2, 857, 030円となっている。

以上

公益社団法人日本パブリックゴルフ協会
会長(代表理事) 三野 哲 治

監事の監査報告事項

私たち監事は、平成25年4月1日から平成26年3月31日までの第4期事業年度の、理事の職務の執行を監査致しました。その方法及び結果につき以下の通り報告致します。

1. 監事の監査の方法及びその内容

- 一 監事は、理事会その他重要な会議に出席するほか、理事等からその職務の執行状況に関する報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査致しました。また、当該事業年度に係る事業報告及び関係書類、並びに会計帳簿等、計算書類及び附属明細書につき検討致しました。

2. 監査の結果

- (1) 事業報告及びその附属明細書が法令又は定款に従い当該法人の状況を正しく示しているかどうかについての意見
 - 一 事業報告及び及びその附属明細書は、法令及び定款に従い協会の状況を正しく示しているものと認めます。
 - 二 計算書類及びその附属明細書は、法令及び定款に従い協会の財産及び損益の状況を、正しく示しているものと認めます。
- (2) 当該法人の理事の職務の遂行に関し、不正の行為又は法令違反若しくは定款に違反する重大な事実があったときは、その事実
 - 一 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実は認められません。
- (3) 監査のための必要な調査ができなかったときは、その旨及びその理由
 - 一 監査のための必要な調査を実施致しました。
- (4) 内部体制の整備についての決定又は決議(監査の範囲に属さないものを除く。)がある場合において、当該事項の内容が相当でないとき、その旨及びその理由
 - 一 当協会は、「業務の適正を確保するための体制等」に関する理事会決定又は、決議は平成25年6月10日開催の平成25年度第1回理事会にて決議した内容は相当であると認めます。

3. 監査報告を作成した日

- 一 平成26年5月26日

平成26年5月26日

公益社団法人日本パブリックゴルフ協会

監事 大田 英二 
監事 菅野 孝男 
監事 豊原 正嗣 

(注) 監事 豊原正嗣は外部監事です。